

直江津市人物列伝

越後の佐久間象山

小林百 甫

ひやっ

ぽ

(一)

直江津市文化財調査委員長

③ 渡 辺 慶 一

五智の国分寺西側の墓地に小林百甫の大きな彰徳碑が淋しく建っています。訪ねる人はおろか、百甫の名を知る人さえ少くなりました。たしかに「明治は遠くなり」ました。あたかも本年は「明治百年」ということで、全国各地にいろいろな行事が計画されています。私どもも、ぜひ「直江津の明治百年記念展覧会」でもやってみたいと考えています。

小林百甫については、拙著「越後府中文化」に詳しく載せてありますから、ここでは単に直江津の人びとをはじめ新潟県の人びとに百甫の学者的、社会的価値を再認識して頂く程度にとどめたいと考えています。
あまたな非凡な学力をもち、卓抜した識見を有しながら、一介の町人であるため、終生ついに直江津

今町の和算家小林百甫で終わってしまいました。百甫の学問は数学(和算)をはじめ天文・暦学・測量・易学・砲術の奥義を極め、さては当時いたってまれな蘭学にも及びました。直江津としては、まさに「百甫の前に百甫なく、百甫の後に百甫なし」といった空前絶後の大学者でありました。

百甫の数学の門人だけでも優に五千人を越え、中には長野県・群馬県・富山県の人も名を連ねています。慶応元年、幕府は再度の長州征伐を企てたとき、百甫は召出されて、高田藩砲術の指南のため従軍したが、大坂に滞期中、わずかな間に彼に数学の教えを乞う者二十余人も集ったことは、すでに彼の名が京坂の間に知られていたことを物語っています。

もし百甫をして佐久間象山のよ

うに、江戸や京都など中央に出て自由に活躍させたなら容易に日本的な存在となったでありましよう。私は百甫をもって、幕末の先覚者象山と並べ称したいゆえんは、ここにあります。

しかし、北越の片田舎に生涯くすぶったとはいえ、百甫の卓抜した時代を洞察する学問的識見は、まさに日本的なものがありません。それは次の一事を以て明らかに証明することができます。

天保十五年(一八四四)の秋、^{ばんしゃ}蛮社の獄に連坐して投獄された有名な蘭医・蘭学者高野長英が、江戸小伝馬町の牢屋の火災に逃亡して、ひそかに百甫を訪れた

時、無言のうちに「いまこの日本一の蘭学者大先覚を幕府の追手から匿^{かく}ま^かってやらなければ、日本のれい・明はいつ来るか分らん」と敢然として長英をかくまい幕吏の敵しい追手を避けてやったのであります。(詳細は拙著

「新潟の歴史」)おかげで長英は無事に郷里岩手県水沢へ着きました。

長英と百甫は蘭学を通じて子弟の関係があったかどうか分りませんが、同年である二人は、前から江戸で知り合っていたことは確かです。

そんなことは知らず、当時江戸の人たちは長英の亡命について「いづこへ走り候や、定めてリュス(ロシア)などと察し候」などと風説が立ちました。

これを見ても小林百甫の学問的識見は国家的に高く評価されてよいと私は考えます。



直江津市 人物列伝

③

越後の佐久間象山

小林百嘯

(一)

直江津市文化財調査委員長

渡辺慶一

私は佐藤市長の厳父さんや元町長福永好次郎さんから、百嘯のこといろいろお聞きし、いっかこの隠れた大学者先覚を世に出したいと考えていました。

佐久間象山は百嘯より七年おそく生まれましたが、信州松代の藩士であり、英明な藩主に仕え自由な立場にあったから、江戸で塾を開いたり、京都で実践的な開国運動もできました。しかし百嘯にはその自由が与えられなかったのです。あります。にもかかわらず百嘯の業績には中央の学者さえ眼を見張らすようなものがありました。

府の命を受けて沿岸防備のため、市振——鉢崎間に二十二の台場だいば（砲台）を築いたとき、百嘯を召寄せその設計・測量・造築を命じました。百嘯はこれをオランダ流の仕法によって、みごとに完成したので、幕府の天文方筆頭内田五観が「田舎にもこんな偉い学者があるのか」と驚きました。百嘯によって高田藩も大いに面目を一新したわけです。

百嘯の門人の中から後年、各地方に重要な活動をした人が沢山ありましたが、特に傑出した人は高田藩士林百郎で、彼は後に江戸へ出で、蘭学を修め江川太郎左衛門について砲術の蘊奥を極め、横浜港建設の最初の科学的基礎測量を行なったことで知られています。慶応二年、高田藩は初めて藩校修道館を岡島に開き、百嘯に称百石を与えて士分に取り立て、修道館の数学の教師に招きました。また明治五年、学制発布となるや、百嘯は卒先して直江津校開校のために尽力し、自らも数学の教師となり多くの学童に教えました。実に直江津市教育界の大功労者と申さなければなりません。

明治二十年正月九日、百嘯は八十四才の高齢で左の絶句を最期として病に倒れました。

むらかみの松に並ぶや
春の鶴 梅咲いてこち吹
く窓をあけ離し

余談になりますが、本紙三月一日号の百嘯の写真は、直江津市いや新潟県の写真第一号ともいえる珍しいもので、私が発見した古いガラス版のネガを、数人の写真屋に頼んでやっと再現したものです。慶応元年百嘯六十二才のときの写真で日本の写真術の元祖ヒューマケンの弟子下岡蓮れん杖じょうが撮影したもので、百嘯は横浜で蓮杖に撮らせた、当時としては最もハイカラなものでした。

